

工事事務(速報)の情報提供について

工事の安全管理には、日頃から万全を期していただいているところではありますが、この度、残念ながら別紙に示す工事事務が発生しました。

各事務(管理)所の工事現場において、このような工事事務が再び発生することのないように工事事務概要を皆様にお知らせいたします。

本資料を活用し、受注者を適切にご指導頂き、再発防止に努めて頂きますようお願いいたします。

【工事事務(速報)発生状況】 (H25.6.30現在)

	6月発生件数	累計件数	死亡者数	負傷者数
平成25年度(今年度)	12件	17件	1人	7人
平成24年度(昨年度)	3件	85件	1人	32人

注1) 上記は、関東地方整備局管内の工事事務発生件数(速報)を示す。

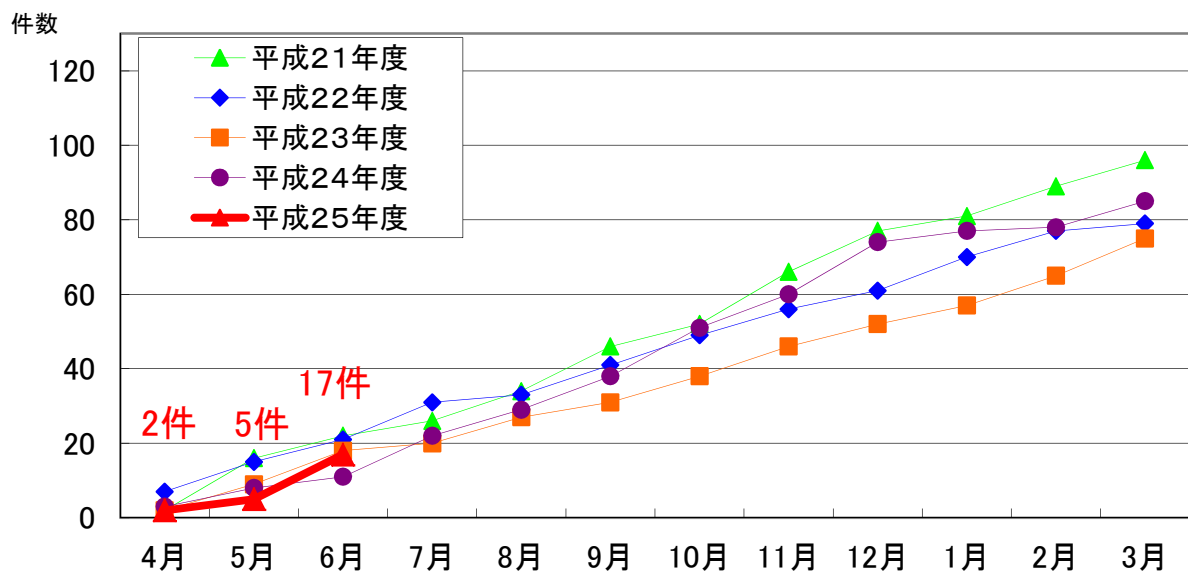
注2) 「6月発生件数」は、6/1～6/30の間に起きた件数。(月毎分)

注3) 「累計件数」は、4/1～3/31の間に起きた件数。(累計分)

注4) 「死亡者数」「負傷者数」は、4/1～3/31の累計人数を示す。

注5) 平成25年度の数字は「速報」であり、審査の結果、「不問」になる可能性がある。

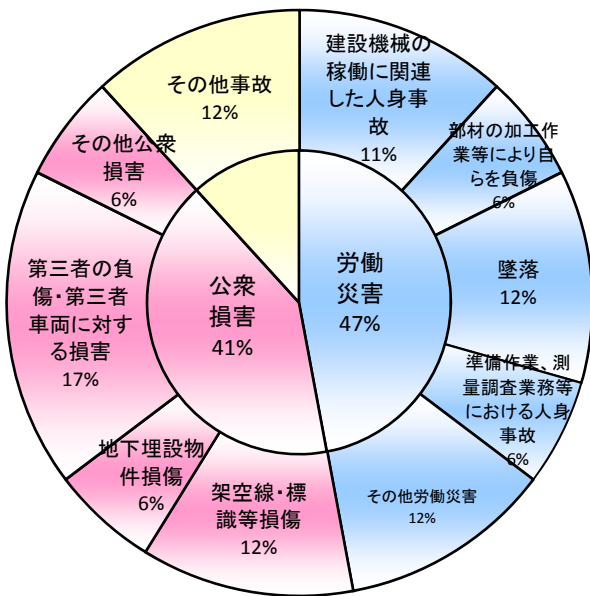
●工事事務件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成21年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	16件 (14件)	22件 (6件)	26件 (4件)	34件 (8件)	46件 (12件)	52件 (6件)	66件 (14件)	77件 (11件)	81件 (4件)	89件 (8件)	96件 (7件)
平成22年度 累計 (月毎)	7件 (7件)	15件 (8件)	21件 (6件)	31件 (10件)	33件 (2件)	41件 (8件)	49件 (8件)	56件 (7件)	61件 (5件)	70件 (9件)	77件 (7件)	79件 (2件)
平成23年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	9件 (7件)	18件 (9件)	20件 (2件)	27件 (7件)	31件 (4件)	38件 (7件)	46件 (8件)	52件 (6件)	57件 (5件)	65件 (8件)	74件 (9件)
平成24年度 累計 (月毎)	3件 (3件)	8件 (5件)	11件 (3件)	22件 (11件)	29件 (7件)	38件 (9件)	51件 (13件)	60件 (9件)	74件 (14件)	77件 (3件)	78件 (1件)	85件 (7件)
平成25年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	5件 (3件)	17件 (12件)									

※なお、平成21年度工事事務より、国の管理物損傷事故件数を措置の対象としている。

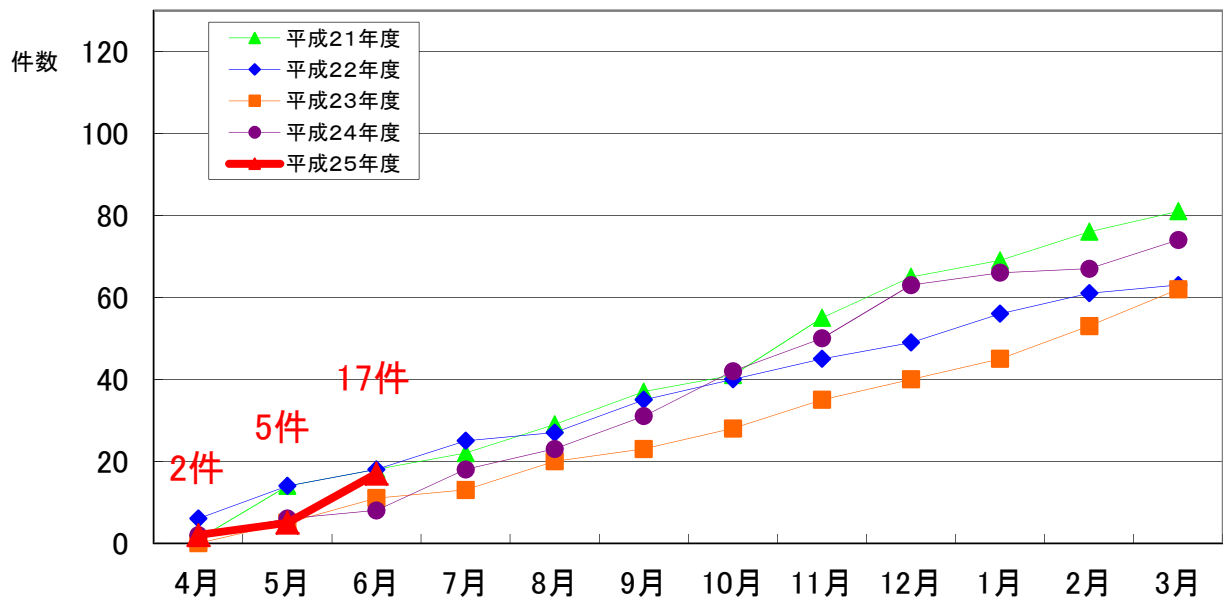
●平成25年度 工事事故発生状況(発生形態別)



	発生形態	H23	H24	H25	過去3年間計
労働災害	建設機械の稼働に関連した人身事故	4	7	2	13
	部材の加工作業等により自らを負傷	1	0	1	2
	運搬中の資機材等の落下や下敷きで負傷	5	9	0	14
	墜落	3	5	2	10
	準備作業、測量調査業務等における人身事故	0	0	1	1
	その他労働災害	1	6	2	9
小計		14	27	8	49
公衆損害	架空線・標識等損傷	9	10	2	21
	地下埋設物件損傷	8	7	1	16
	第三者の負傷・第三者車両に対する損害	22	19	3	44
	その他公衆損害	18	19	1	38
小計		57	55	7	119
その他事故		3	3	2	8
計		74	85	17	176

 …H25年度重点的安全対策項目

(参考)工事事故のうち、「その他公衆損害」における車両管理業務等の車両の自損事故を除く事故件数(車両管理業務等の車両の自損事故を除いた工事事故件数)

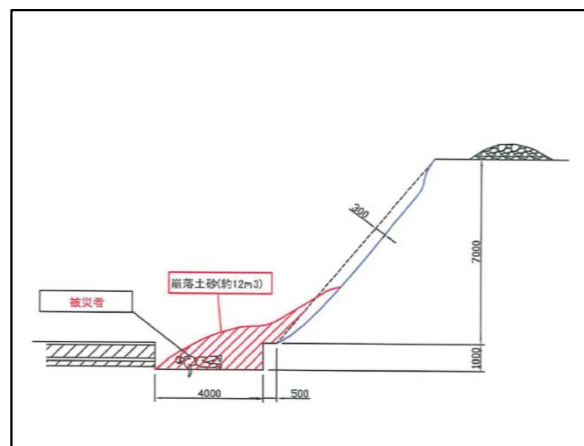
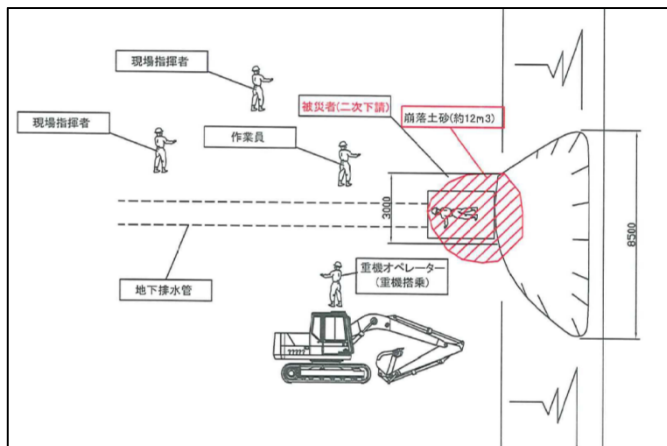


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成21年度 累計(月毎)	1件(1件)	14件(13件)	18件(4件)	22件(4件)	29件(7件)	37件(8件)	41件(4件)	55件(14件)	65件(10件)	69件(4件)	76件(7件)	81件(5件)
平成22年度 累計(月毎)	6件(6件)	14件(8件)	18件(4件)	25件(7件)	27件(2件)	35件(8件)	40件(5件)	45件(5件)	49件(4件)	56件(7件)	61件(5件)	63件(2件)
平成23年度 累計(月毎)	0件(0件)	5件(5件)	11件(6件)	13件(2件)	20件(7件)	23件(3件)	28件(5件)	35件(7件)	40件(5件)	45件(5件)	53件(8件)	62件(9件)
平成24年度 累計(月毎)	2件(2件)	6件(4件)	8件(2件)	18件(10件)	23件(5件)	31件(8件)	42件(11件)	50件(8件)	63件(13件)	66件(3件)	67件(1件)	74件(7件)
平成25年度 累計(月毎)	2件(2件)	5件(3件)	17件(12件)									

■問合せ先:企画部 技術調査課 遠藤・桑田 (TEL 048-600-1332)

発生日時	平成 25 年 6 月 8 日 (土) 10 時 50 分				天候	晴
工事情報	道路事務所 一般土木工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	男	45	普通作業員	死亡		
事故概要	掘削完了箇所にて、地下排水溝の設置作業中、掘削法面が崩落し、作業員が生き埋めとなり、後に死亡が確認されたもの。					労働災害—その他労働災害

事故発生状況



- ・被災者を含む計3名の作業員で、掘削完了箇所の切土法尻部において、地下排水工の設置作業を実施。
- ・管路部の掘削完了後、基礎碎石を投入するために床掘作業が完了した作業員3名に退避するよう指示があり、2名が退避し、残り1名が退避しようとした際に、法面が崩落。作業員1名が生き埋めとなった。
- ・約15分後、救出され、意識不明の状態であったが、その後容態が急変し、死亡した。

【事故発生原因】

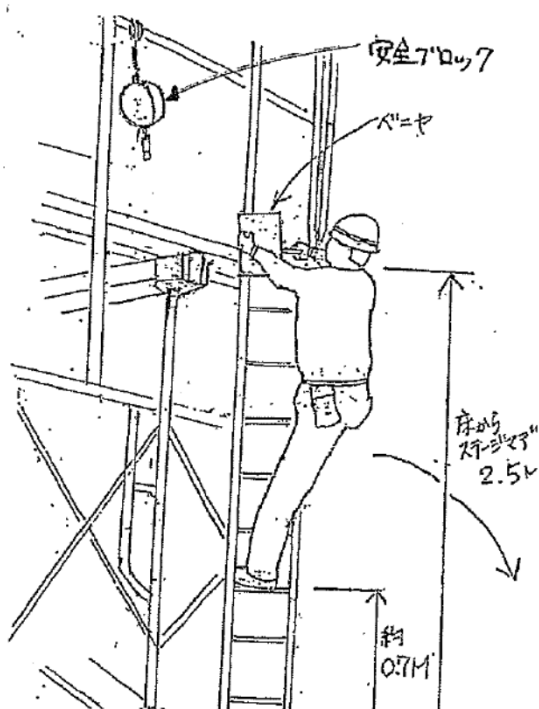
- ・作業中の法面点検を行わずに作業を実施したため、危険予知ができていなかった。 など

【事故防止のポイント】

- ・法尻で作業をする際は、直上の法面をネットにて防護し、監視員による法面の挙動監視を行う。 など

発生日時	平成 25 年 6 月 12 日 (水)				9 時 15 分	天候	雨
工事情報	営繕事務所 建築工事						
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度			
	男	35	型枠工	左踵骨骨折			
事故概要	200角程度の型枠材を左手に持った状態で昇降タラップを昇った際、手を滑らせてバランスを崩し、地面に落下し、負傷したもの						
労働災害－墜落							

事故発生状況



・型枠建て込みのため、200角程度の型枠材を左手に持った状態で昇降タラップを使用して、作業床(H=約2.5m)へ昇る際、手を滑らせてバランスを崩し、地面に落下(約0.7m程度)。左踵を強打して、骨折。

・急な落下を防止するため、安全ブロックがついており、作業手順書等では使用することとなっていたが、作業員は使用していなかった。

・型枠材料を上下に運搬する際は、つり綱やつり袋等を使用しなければならないが、そのための設備が設置されていなかった。

【事故発生原因】

・適切な作業手順や安全対策等の周知・徹底がなされていなかった。
など

【事故防止のポイント】

・適切な作業手順を作成し、安全対策実施の周知・徹底を行う。
など

別紙

発生日時	平成 25 年 6 月 15 日 (土)				9 時 40 分	天候	晴
工事情報	河川事務所 維持修繕工事						
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度			
	—	—	—	—			
事故概要	工事で使用する筏にシンカーブロックとウェルダー溶接機を積んで、4tユニック車で吊り下ろした時に、水面から約1.0mの地点でブームを旋回した瞬間にゆっくり横転し、水門躯体上部の門柱側面に接触して止まったもの。 その他事故						

事故発生状況



・工事で使用する筏を4tユニック車で吊り降ろしていた。

・筏(約1100kg)には、シンカーブロック(約150kg)とウェルダー溶接機(約100kg)を積んでいた。

・水面から約1.0mの地点でブームを旋回した瞬間にゆっくり横転し、近接していた水門躯体上部の門柱側面に接触して止まった。

・人的被害はなかった。また、ユニック車のガラスは破損したが、接触した水門躯体上部の門柱には被害はなかった。電源盤等も設置されていたが、損傷等はなく、水門の運営には被害はなかった。



【事故発生原因】

・クレーン装置の定格荷重と作業半径、吊り荷の重量などに関する作業員への指示が伝達されていなかった。

【事故防止のポイント】

・使用機械と作業内容をしっかり把握し、作業内容に適した機械と手順で作業を行う。 など

発生日時	平成 25 年 6 月 17 日 (月) 11 時 0 分					天候	晴
工事情報	河川事務所 測量業務						
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度			
	男	52	－	右肘切り傷(全治2週間)			
事故概要	測量作業中、作業員が足を滑らせて転倒し、負傷したもの。						
	労働災害－準備作業、測量調査業務等における人身事故						

事故発生状況



- ・測量業務の作業中、作業員が流路を横断しようとして、足を滑らせた。
- ・流路には水が若干流れており、滑りやすくなっていた。
- ・流路の傾斜角は約30度あり、約70m滑落した。
- ・測量作業は、一人で実施していた。

【事故発生原因】

- ・危険な箇所での作業の安全対策の周知・徹底不足
など

【事故防止のポイント】

- ・危険な箇所で作業を実施する際は、複数人で作業を実施する。
など

発生日時	平成 25 年 6 月 18 日 (火) 9 時 25 分				天候	晴
工事情報	河川事務所 一般土木工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	—	—	—	光ケーブル切断		
事故概要	かごマットの作業中、バックホウにて、地盤を掘り下げ、光ケーブルを切断したもの。					
	公衆損害—地下埋設物件損傷					

事故発生状況



・かごマットの埋戻し及び整地作業中、詰石として使用できない土砂混じりの割栗石を、表面に露出させないように地盤を掘り下げたところ、光ケーブルを切断。

・光ケーブルがあることは、認識しており、目印等の注意喚起措置も講じられていた。バックホウオペレーター自身も認識していた。

【事故発生原因】

・埋設物がある場所での作業における注意点等の周知・徹底不足 など

【事故防止のポイント】

・埋設物がある場所で作業を行う場合の注意点等を周知・徹底する。 など

発生日時	平成 25 年 6 月 18 日 (火) 9 時 50 分				天候	晴
工事情報	河川事務所 一般土木工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	—	—	—	NTT引き込み線損傷(1軒不通)		
事故概要	足場固めのために走行していたバックホウ(0.2m3)が架空線(NTT引き込み線)を切断したものの。 公衆損害－架空線・標識等損傷					

事故発生状況



- ・除草作業に先立ち、足場を固めるため、バックホウにて走行していた。
- ・途中で地面が上り勾配になっていたが、気づかずに進行していたため、アームが架空線に接触し、切断してしまった。
- ・のぼり旗や三角旗等の注意喚起措置は未実施であった。

【事故発生原因】

- ・架空線に対する注意喚起不足
など

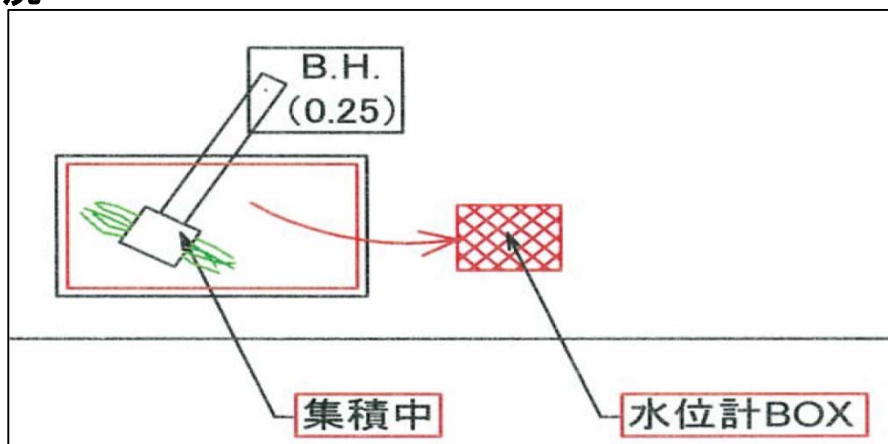
【事故防止のポイント】

- ・事前に現場をよく調査し、接触の危険性がある場合には注意喚起を講ずる。
など

別紙 7

発生日時	平成 25 年 6 月 18 日 (火) 11 時 5 分				天候	晴
工事情報	公園事務所 維持修繕工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	—	—	—	水位計測器損傷		
事故概要	樹木を伐採中、伐採した木をバックホウにて掴んで旋回した際、伐採木が近接していた水位計測器に接触し、損傷したもの。					
	公衆損害－第三者の負傷・第三者車両に対する損害					

事故発生状況



- ・準備工の伐採作業中、発生した伐木を搬出するにあたり、フォークグラブ付きのバックホウで伐木を銜え、左旋回した際、周囲にあった既存の水位計測器に伐木の端部が接触して、損傷。
- ・水位計測器に対する注意喚起等の措置は実施されていなかった。

【事故発生原因】

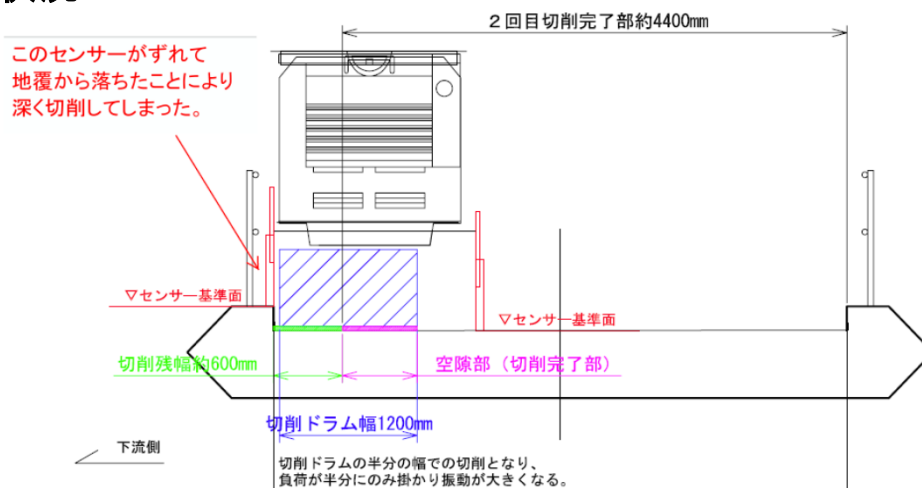
- ・周辺の既設構造物等に対する注意喚起不足 など

【事故防止のポイント】

- ・事前に現場をよく調査し、接触の危険性がある場合には注意喚起を講ずる。など

発生日時	平成 25 年 6 月 17 日 (月)				天候	晴
工事情報	河川事務所 一般土木工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	—	—	—	PC桁損傷		
事故概要	橋梁補修のため、橋面のはつり作業を実施していたところ、設計切削深さを大きく割り込み切削し、PC桁のコンクリート及び鋼線を損傷させたもの。					公衆損害－その他公衆損害

事故発生状況



- ・橋梁を補修するため、路面切削機械により、橋面のはつり作業を実施していた。
- ・切削深さは、切削機のセンサーで管理していたが、端部を施工中、センサーがずれてしまい、予定よりも深く切削してしまった。
- ・深く切削してしまったことにより、橋梁内部のPC鋼線を切断してしまった。

【事故発生原因】

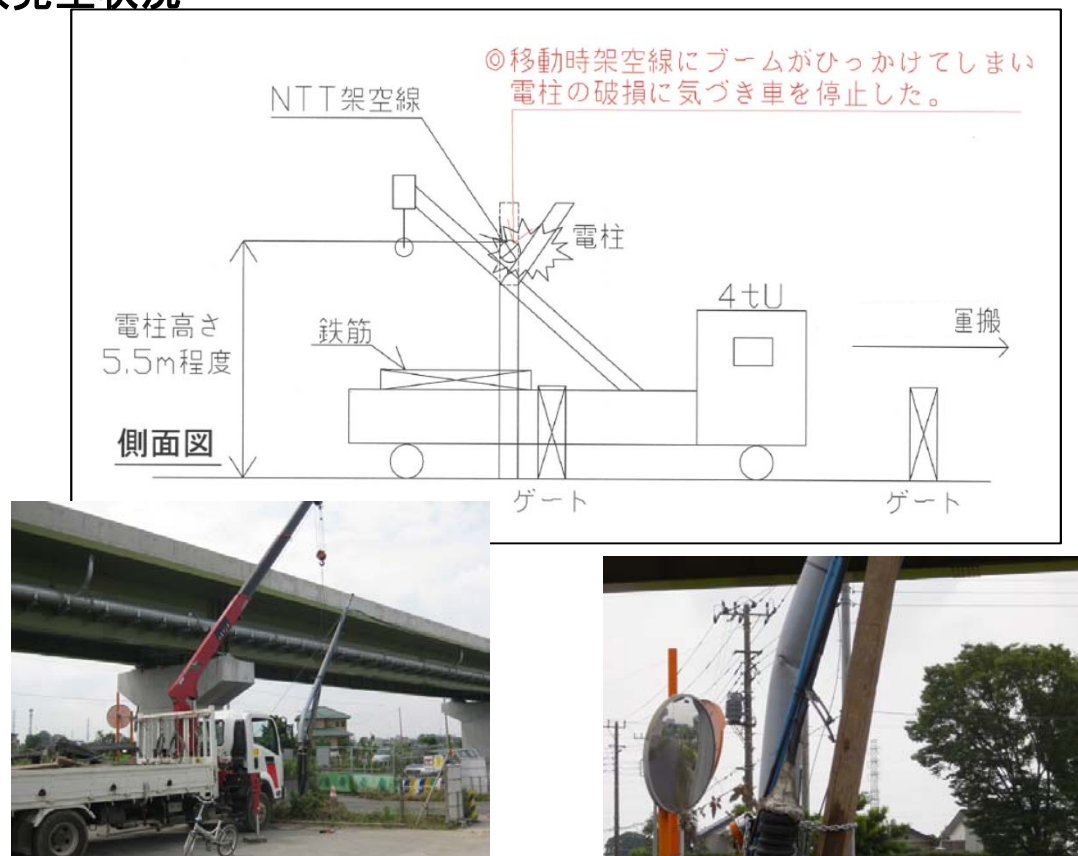
- ・橋梁の幅員と施工機械の関係に適した作業手順ではなかった。
など

【事故防止のポイント】

- ・施工前に現場をよく調査し、適した作業手順で施工する。 など

発生日時	平成 25 年 6 月 25 日 (火)				天候	晴
工事情報	道路事務所 鋼橋上部工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	—	—	—	NTT柱損傷		
事故概要	作業ヤードで加工を行った鉄筋を、4tユニック車を用いて積み込み、場内運搬を行っていたが、ユニック車のブーム格納を忘れたまま、道路を横断したとき、NTTの通信線にブームを引掛け、支柱を損傷させたもの。 公衆損害—架空線・標識等損傷					

事故発生状況



- ・作業ヤードで加工を行った鉄筋を、4tユニック車を用いて積み込み、それを運搬し、鉄筋荷上げ用クレーンにて荷上げを行う作業になっていた。
- ・ユニックによる荷台への積み込みが終わり、場内運搬を行うため走行を開始したが、使用していたユニックのboom格納を忘れていたため、積み込み場所に近接する道路を横断したとき、NTTの通信線にboomを引っ掛け支柱を曲げた。
- ・のぼり、三角旗等の注意喚起措置は実施されていなかった。

【事故発生原因】

- ・架空線に対する注意喚起不足など

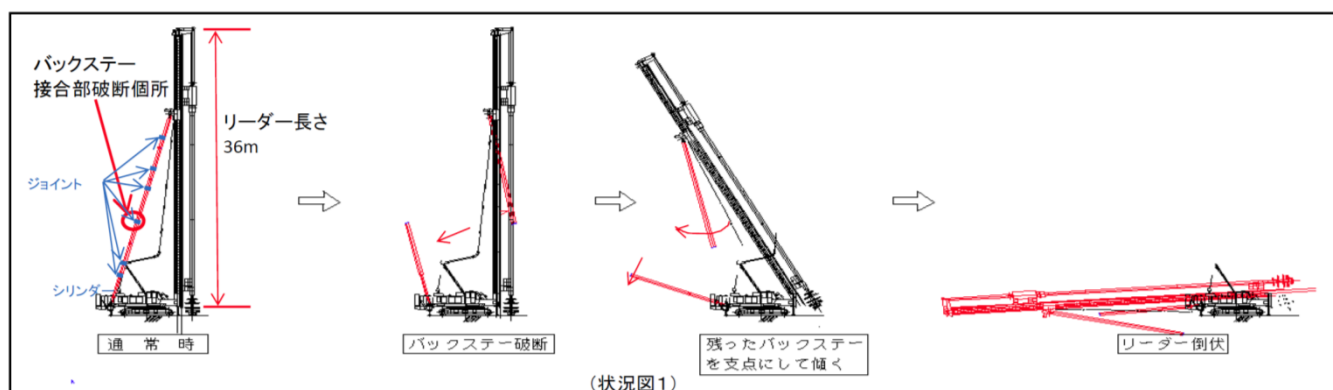
【事故防止のポイント】

- ・事前に現場をよく調査し、接触の危険性がある場合には注意喚起を講ずる。など

別紙 4

発生日時	平成 25 年 6 月 25 日 (火)				天候	晴
工事情報	道路事務所 一般土木工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	—	—	—	—		
事故概要	地盤改良施工中、地盤改良機のバックステーが破損し、リーダーが折損したもの。					
	その他事故					

事故発生状況

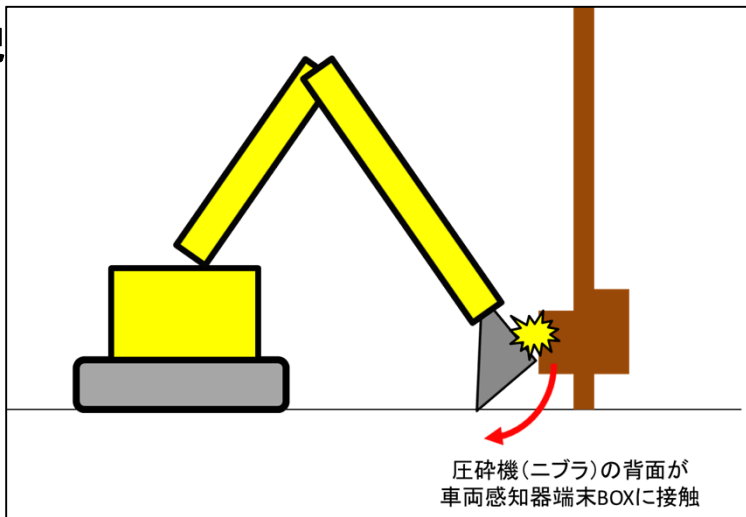


・地盤改良完了後、次の施工位置へ移動後、リーダーが左前方へ1度傾いていたので、バックステーにより傾きの調整をしようとしたが、調整することができず、大きな音とともにリーダーが大きく揺れ、転倒した。改良機本体を確認したところ、右側バックステーのジョイント部、及びリーダーの根元が折れていた。

・現場は転石及び異物が多く発生しており、そのため、改良時にリーダー・バックステーに不規則な振動が発生し、中央ジョイント部に繰り返し過大な力が加わり、バックステー接合部のボルトが破断したと推測される。

発生日時	平成 25 年 6 月 29 日 (土)				天候	晴
工事情報	道路事務所 As舗装工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	—	—	—	車両感知器の破損		
事故概要	コンクリートの破砕作業中、近接していた車両感知器にバックホウが接触し、損傷させたもの。					
	公衆損害－第三者の負傷・第三者車両に対する損害					

事故発生状況



- ・コンクリートをバックホウで破砕していた際、バックホウの先端が警察の車両感知器に接触し、損傷。
- ・防護等の安全対策は未実施であった。

【事故発生原因】

- ・周辺の既設構造物等に対する注意喚起不足 など

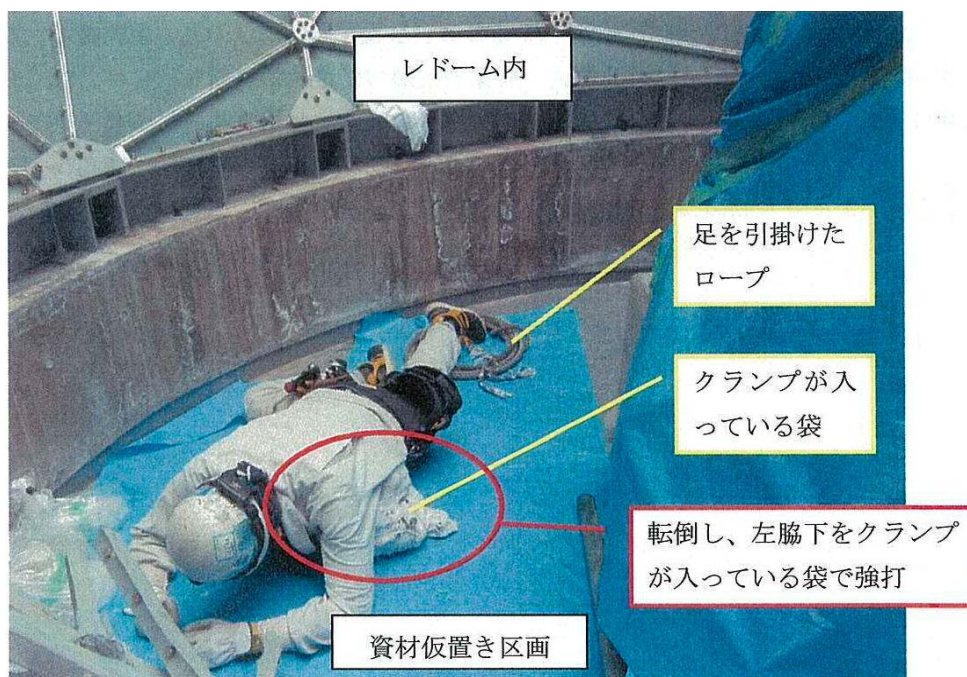
【事故防止のポイント】

- ・接触の危険性がある場合には注意喚起や防護等の措置を講ずる。 など

別紙

発生日時	平成 25 年 6 月 29 日 (土)				天候	晴
工事情報	本局 電気通信設備製造					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	男	65	電気通信技術者	左脇下肋骨骨折		
事故概要	レドーム内でレーダ解体作業中に、現場の床に置いてあったロープに作業員が躓き転倒し、負傷したもの。					
	労働災害－その他労働災害					

事故発生状況



・レドーム内でレーダの解体作業を行っている最中に、資材仮置き区画の床面においていたロープに躓き、足場用クランプが入っている袋に左脇の下を強打し、肋骨を骨折した。

・資材置場と作業通路の区画が明確に区別されていなかった。

【事故発生原因】

・資材置場と作業通路の区別がされていなかった。 など

【事故防止のポイント】

・作業通路には資材等は置かずに、現場の整理整頓を行う。 など